

小鹿野

春祭り

四月の第三土曜日とその前日の両日行われる小鹿神社の例大祭(小鹿野春祭り)は、春爛漫の穏やかな陽気の中、華麗な衣裳を身に着けた「上乗り」「反り木」「拍子木」「金棒つき」などの役人が力いっぱいいの声を上げ、四基の豪華な屋台・笠鉾を曳行しながら町中を進む。町の人々は、この光景を大変誇りにしている。

約四〇〇年前の江戸時代初期、小鹿野盆地の中心に、市場、代官所、寺院、神社などが計画的に建設された。その折、諏訪明神を上森(現在の小鹿神社が鎮座する所)に移転し、町並みの入口(現在の小鹿神社旧本殿がある飛び地境内)に小鹿野明神を移転させ、両方の神社を小鹿野の鎮守に奉った。こうした由来から、現在でも市街地の東西にある小鹿神社の間を神輿が往復することが祭礼の基本となっている。



春は爛漫

祭りは一日目の午前、「春日町」「上町」「新原」「腰之根」の四町の絢爛豪華な屋台・笠鉾が豪華な秩父囃子を轟かせながら町内を曳行され、華やかな装いの女子中学生たちが打ち鳴らす金棒の甲高い音色は一層祭り気分を盛り添え、夕方から夜にかけて屋台の上で秩父囃子・屋台歌舞伎の上演がある。屋台歌舞伎は、江戸時代末期から行われてきた小鹿野春祭りならではの光景で、床に回り舞台が付き、両芸座、花道を組み立て、歌舞伎を上演できる。



祭り浪漫

祭り二日目は、屋台・笠鉾が各町内を出発し、市街地を通って屋傾、神社に引き揃えられる。最初に神社に引き揃えられる年と、飛び地境内に引き揃えられる年とは一年交替となっている。神社では修祓の後一回で手締めを行い、屋台で所作という少女たちによる長唄などの舞踊が奉納される。夕刻、再び屋台・笠鉾が神社に引き揃えられる仕掛け花火が町並みを彩る。祭りの終わることを惜しみながら、「また来年まで」と各町内に引き上げるのは夜も更けた頃。春の夜空に桜も散り始める...



かすが ちよう やたい
春日町屋台



かみちよう やたい
上町屋台



しん はら かさ ぼこ
新原笠鉾



こしの ね かさ ぼこ
腰之根笠鉾

小鹿野 春目まつり

町の鎮守として、市街地の東西に建てられた神社の間を神輿が往復することが小鹿野春まつりの基本形態である。

起源は江戸時代初期までさかのぼり、旧家に残る由緒書きによれば、上の森（現在の小鹿神社が鎮座する所）の諏訪明神と町並みの入口（元宮がある町役場裏）の小鹿野明神両社を小鹿野の鎮守としたと記されている。また、諏訪明神祭日の二月二十七日には、諏訪明神から小鹿野明神へ、小鹿野明神の祭日七月二十七日には、その逆というように、交互に神輿渡御が行われていた。

明治四三年の豪雨により、小鹿神社境内（現在の元宮）が陥没したため、本殿だけを残し、腰の根にあつた諏訪神社に合祀し社号も小鹿神社とした。現在でも祭りの原形をそのまま受け継ぎ、神社境内に屋台・笠鉦を曳き上げて祭りが終わる年と、元宮に曳きつけて終わる年と一年交替になっている。

祭初日(一日目)・当日(二日目) 春 笠鉦・屋台曳行予定

| | | |
|-------------|-------|--|
| 初日 (一日目) | 10:00 | 宮参り |
| | 13:00 | 笠鉦・屋台各町内曳返し |
| | 夕刻 | 小鹿野歌舞伎上演(張出屋台) |
| 当日 (二日目) | 09:00 | 笠鉦・屋台町内曳返し |
| | 10:00 | 祭典 |
| | 12:00 | 笠鉦・屋台曳揃え *西暦偶数年は元宮(旧本殿) *同偶数年は小鹿神社 |
| | 13:00 | 神幸祭(御輿渡御) |
| | 14:00 | 笠鉦・屋台曳返し再開 |
| | 19:00 | 笠鉦・屋台曳揃え *西暦偶数年は元宮(旧本殿) *同奇数年は小鹿神社 |
| 21:00 | 煙火奉納 | |

※行事の時間等は変更される場合があります。



小鹿野町産業観光課
 ☎0494-79-1100 〒368-1292 埼玉県秩父郡小鹿野町両神薄2906
<http://www.town.ogano.lg.jp/>

春 上町屋台 新原笠鉦 腰之根笠鉦

笠鉦・屋台曳き揃え
 西暦偶数年/夜
 西暦奇数年/昼

春日町屋台歌舞伎
 (祭り初日夕刻)

上町屋台歌舞伎
 (祭り初日夕刻・隔年)

上町屋台歌舞伎
 (祭り初日夕刻・隔年)

笠鉦・屋台曳行経路
 (祭り当日9:00~22:00)

腰之根曳き廻心
 (祭り初日11:00~19:00)

笠鉦・屋台曳き揃え
 西暦偶数年/昼
 西暦奇数年/夜